

アクセスマップ



会場

市民活動プラザ星園
札幌市中央区南8条西2丁目

最寄駅

- 地下鉄東豊線
豊水すすきの駅6番出口 徒歩7分
- 地下鉄南北線
中島公園駅1番出口 徒歩6分

お申込の手順

参加申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局宛にFAXまたは郵送でお送りください。折り返し、参加票兼請求書をFAXまたは郵送にてお送りいたします。※昼食は各自でご用意ください。なお、会場内での飲食はできませんので、あらかじめご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ

全国コミュニティライフサポートセンター / 担当：島田・田村
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町ビル1階 TEL：022-727-8730

※FAX 番号のお間違えにご注意願います

FAX **022-727-8737**

【参加申込書】 第3回「廃校の地域福祉利用全国サミット in 札幌」

全国コミュニティライフサポートセンター 宛

申込責任者			団体名		
所在地	〒		(自宅・職場)	TEL	
				FAX	
お名前		役職		お名前	
[1]				[3]	
[2]				[4]	

第3回

廃校の地域福祉利用 全国サミット in 札幌



日時 **2012年12月22日(土)** 会場 **札幌市民活動プラザ星園
大会議室**
(札幌市中央区南8条西2丁目)
10:30～16:50

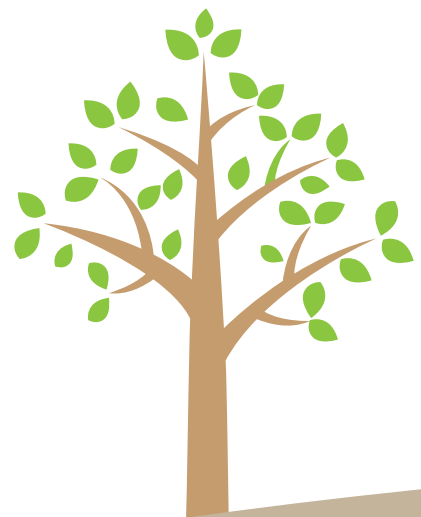
定員 **100人(先着順)** 参加費 **3,000円**

少子高齢化や市町村合併などを背景に、学校の統廃合や閉校が進み廃校が増加しています。2009年には、1年で526校もの小・中・高校などが廃校となるなど、その数は急増しています。

閉校と同時に、活気を失い、地域が寂れていく象徴のように捉えられる廃校ですが、その立地や人が集まる場所であった特徴を活かした廃校利用の取り組みも増えています。

もともと学校は、地域コミュニティの核として機能し、人の交流や地域活力の源となってきました。東日本大震災では多くの学校が避難所となるなど、災害時や防災の拠点としての役割も期待されています。廃校になっても、地域の拠点として人づくり、地域づくりの源であり続けるためには、何が必要か。このサミットでは廃校利用の可能性を探るとともに、学校と地域との協働や連携の活動についても併せて考え合います。

主催 第3回廃校の地域福祉利用全国サミット in 札幌実行委員会
全国コミュニティライフサポートセンター



プログラム

10:00~10:30 受付

10:30~10:40 開会

10:40~11:10 基調講演

「廃校の地域福祉利用の意義」

北星学園大学社会福祉学部 教授 杉岡直人

11:10~12:40 廃校利用の実践に学ぶ①

「廃校を福祉の拠点に」

行政報告

厚生労働省老健局振興課
地域包括ケア推進官・(併任)課長補佐 岡島さおり

実践報告

光生舎ゆいま～る・もみじ台
(通所介護・訪問介護・居宅介護・就労継続支援B型・喫茶／
北海道札幌市立もみじ台南小学校跡)
総合管理者 谷亨

株式会社 北海道医療新聞社
介護新聞編集部 主任 熊谷知喜

コーディネーター

全国コミュニティライフサポートセンター
理事長 池田昌弘

12:40~13:30 昼食休憩

13:30~15:00 廃校利用の実践に学ぶ②

「廃校を地域の生活支援拠点に」

行政報告

文部科学省大臣官房文教施設企画部 施設助成課
課長補佐 齋藤憲一郎

実践報告

四谷ひろば運営協議会
(四谷ひろば／東京都新宿区立四谷第四小学校跡)
事務局長 田谷節子

第二明星学園・田代西部福祉センター
(ケアホーム／熊本県御船町立田代西部小学校跡)
施設長 山崎雅之

コーディネーター

東北福祉大学総合福祉学部
教授 高橋誠一

15:00~15:10 休憩

15:10~16:40 ディスカッション

「住み慣れた地域で その人らしく最期まで暮らすための 地域福祉の拠点として、廃校利用を考える」

パネリスト

社会福祉法人 北海道光生舎
(通所介護・訪問介護・居宅介護・就労継続支援B型・喫茶／
北海道札幌市立もみじ台南小学校跡)
理事長 高江智和理

第二明星学園・田代西部福祉センター
(ケアホーム／熊本県御船町立田代西部小学校跡)
施設長 山崎雅之

札幌市 市民まちづくり局都市計画部
地域計画課長 村瀬利英

北海道保健福祉部福祉局
高齢者保健福祉課長 上田尚弘

厚生労働省老健局振興課
地域包括ケア推進官・(併任)課長補佐 岡島さおり

文部科学省大臣官房文教施設企画部 施設助成課
課長補佐 齋藤憲一郎

コーディネーター

北星学園大学社会福祉学部
教授 杉岡直人

16:40~16:50 閉会

活動紹介

実践報告 1

おうるの郷 (北海道新冠町)

旧新冠町立東川小学校を使った再生利用事業で、おうるの郷が誕生しました。全館あたたかな木の温もりや、広々とした体育館があり、入居者それぞれのプライバシーを尊重しながらスタッフと入居者で作る元気な高齢者の集まりをめざす住宅型の有料老人ホームです。

実践報告 2

光生舎ゆいま～る・もみじ台 (北海道札幌市)

2011年に閉校した旧もみじ台南小学校跡を活用して、高齢者デイサービス・居宅介護・訪問介護・障害福祉サービスの複合施設を運営しています。軽食喫茶や地域交流スペースの設置など、地域との交流を積極的に行っています。

実践報告 3

四谷ひろば (東京都新宿区)

子どもから大人までみんなが集えるひろばを目指して、旧四谷第四小学校を活用してつくられました。NPO2団体と地域が主体となって自主管理・運営を行う地域ひろばが協働して、「四谷ひろば運営協議会」を設置しています。芸術活動やおもちゃ美術館、各種サロンなど、幅広い活動に取り組んでいます。

実践報告 4

第二明星学園 (熊本県御船町)

2005年3月に廃校になった御船町立田代西部小学校跡地を改修し福祉拠点として活用しています。障害を持った方たちが自立を目指し、過疎化が進む地域の中で、自然に囲まれたケアホーム「こもれび」にて共同生活を送りながら、日中活動支援の就労継続支援B型パン工房「森のめぐみ」にて食パンや菓子パン、クッキー、ブレンドコーヒーの製造販売を行っています。